

令和6年度 第2回青森県総合社会教育センター運営協議会 議事録（要旨）

1 日 時

令和7年2月27日（木）10時00分～12時00分

2 場 所

青森県総合社会教育センター4階 第2教材開発室

3 議 題

(1) 事業等の説明及び意見交換について

- ① パワフルAOMORI！創造塾
- ② 大学生とカタル！キャリア形成サポート事業
- ③ 地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業
- ④ 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

(2) 令和6年度青森県総合社会教育センター管理運営状況について

（あおもり県民カレッジ運営事業を含む。）

(3) その他意見交換

4 出席者

〔委員〕（敬称略）

小山田委員、秋田委員、菊地委員、高橋委員、木村委員、大西委員、沼田委員、五十嵐委員、和田委員、近藤委員、金澤委員、工藤委員

〔県総合社会教育センター〕

白戸所長、今泉副所長、槻ノ木沢総務課長、木村主幹、副田育成研修課長、高館社会教育主事、六角指導主事、佐藤教育活動支援課長、佐々木社会教育主事、津嶋指導主事

〔学び・生かすあおもりグループ（指定管理者）〕

渡部事務局長

5 議事録

《案件（1）①②について》

【委員】

私はパワフルAOMORI！創造塾（以下「パワフル」と言う。）の卒塾生であるが、今年度のパワフルがベーシックコースとアクティブコースに分かれて行ったことはよかった。個人でも学べるこの時代になんで学校って必要なんだろうと活動仲間と話をしているが、パワフルは社会教育の学校だと思っていて、一緒に入った同期の仲間が同級生のようになり、同級生が励まし合い、刺激し合いながら一緒に成長する。そういった形はすごくいいことだと思っている。もうひとつ、パワフルOBの方でフリースクールを運営しており、ボランティアスタッフが30名ほどい

る中で、パワフルOBが7名ほどいる。場所は、旧鶴田町立水元中央小学校、現在のツルタラボ（TSURUTA LABO）で、悩んでいる保護者や子どもの居場所になればいいなということで、パワフルOBが活動してるので報告させていただいた。

#### 【事務局】

本当にパワフルの同期の結びつきがとても強くなっている。来年度は、その結びつきのネットワークをしっかりとつつアクションプランの時はコース毎に分かれていくという事業の形を取って行きたいと思っている。

#### 【委員】

大学生とカタルキャリア教育サポート事業（以下「キャリサポ」という。）を見学した。蟹田中学校の体育館に上磯の4つの中学校の生徒が入場し、最初は緊張した感じだったが、大学生が今日の話し合いの説明やアイスブレイク等いろいろやっていくうちに徐々に和やかな雰囲気になっていった。また、各ブースに分かれてからは、大学生の経験を元にした話を中学生が真剣に聞いて、いろいろ参考にしていったようだった。大学生同士が助け合って運営している様子もすごくよかった。その後、進路についての意見交換もあった。最初に大学生が自分の進路についての考えを小グループの中で話し、聞いている中学生が自分のワークシートに自分の将来のことを書いていた。普段あまり学校に来られない生徒も来ていて、その子もきちんと自分の将来について書いており、皆すごく考えているということがわかりとてもよかった。上磯の4校全校生徒が同じ一つの会場に集まってあのような形で語り合ったりする機会はとても貴重な体験で、交流という意味でもすごくよかった。終了後、ある教頭先生が、大学生という先生方とはまた違った感覚の大人と話ができてすごくよかった。大学生の経験を踏まえた将来の希望を聞きながら、自分に置き換えて自分の将来を考える上でもすごくいい機会になり、ありがたかったという話だった。そして今後もこういった機会が将来の目標を考えることにも繋がっていくので、できればまたやっていただければありがたいと話していたのでお願いしたい。

#### 【委員】

キャリサポの課題として「郷土の魅力やふるさとへの誇りなどについて、研修等で触れる機会を設定していく必要がある」ということが書かれているが、これは実際参加している大学生の方から学びたいということだったのか、それとも大人の方が必要だということで設定したのか教えていただきたい。

#### 【事務局】

青森県の教育の方向性というものもあり、こちらの方からやっていけばいいので

はないかということで入れたところである。今年度の様子は、研修時に統計分析課等から青森県に関する資料が出ており、それを研修の中で活用したり参考にしながら、生徒と話しながら進めているところであり、どのような形で生徒の中に落とし込んでいくか考えていく必要があると思っている。

#### 【事務局】

補足させていただく。県の教育大綱が新しく策定され、その中でこどもまんなか青森、子ども達を中心に据えてやっていこうということ、そして若者の定着という考えもあり、ふるさとへの愛着、誇りをしっかり子ども達に伝えていかなければいけないということが大きく打ち出されたということがひとつにある。また、キャリアサポでは、大学生にいろいろな知識、ファシリテーションやコミュニケーション能力をつけるというスキルは身に付けていただいたが、大事な青森への愛情や青森のことをよく知るといふ部分が今までなかったということで、これは社会教育だけではなく、学校教育の現場もキャリア形成の際に、職業観や進路の点では一生懸命サポートしてきたが、地元のことを考える、地元で定着する、地元を知って地元で活躍するというような視点がややもすると重視されてこなかったのではないかということもあり、是非できるところから大学生の皆さんに研修をやらしてもらえないかとお願いをしたという経緯もあった。実際ワークショップの中で学生からもそのような話があったということで、プログラムにも入れられるということで始めた。

#### 《案件（1）③④について》

#### 【委員】

センター事業について視察させていただいた。最初に地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業について、研修内容がとてもよかったが、企業側が受け入れてくれているということがあまり周知されていない。企業側がとても工夫して、会社について子ども達にわかりやすく実施しており、地元愛や自分たちの仕事に誇りを持っているというところに繋がって、それを子ども達が体験できるといういい機会だが、まだまだ知られていないというところがとても残念に思う。いつもどの事業もそうだが、参加者集めや、一般の方達になかなか知られていないというところももったいないと感じた。

次に、社会教育関係職員講座について、受講している職員がきちんと理解しているのかなと感じた。現場の関係者として参加させていただいたが、講師の質問に現場の私たちは答えられるが、受講している職員さん達がなかなかその内容を理解できていない感じがした。とてもよい研修をしているのに、参加している職員が仕方なく参加したような印象が強く、もう少し下調べというか何を勉強しに来るのか理

解して参加しないと、特に初心者や若い方達は、質問の内容がわからず答えられないワークショップだったことがすごく残念だと感じた。

#### 【事務局】

実はその後のアンケートで、そこの地区がそのテーマについてもっと勉強したいという回答が多かったことから、予備知識がなかったということを自分たち自身が認識し、その講座が必要だったという結果が出たことは、開催してよかったと思っている。自身もがっかりした部分もあったが、アンケートの評価に表れていたのので、今後はいろいろな事を想定して、研修講座のテーマを考えていきたいと思っている。

#### 【委員】

きっかけになったというところはよかったと思う。出席した者としては、とても残念に思っていたので、職員の方々に意識が生まれたという事はとても素晴らしいので、今後も続けていただきたい。

#### 【事務局】

今年度新任職員の研修の際に、事前に動画配信を行い、予備知識を少し持って受講していただく取り組みを行ったが、更に検討しながら研修講座を構築していきたいと考えている。

#### 【委員】

これまであまり知識のなかった職員のやる気に火がつくような研修であれば、それはすごく価値あるものだと思う。そういう方々が実際自分の地元で事業をやりたいといった時には、伴走型支援に名乗り出るといった流れが出てくればとてもいいのではないかと思う。また、キャリア教育推進事業について、昨年度西北地区で取り組みがとてもいいものだと受け入れられ、次回から自分たちでやっていくという声が上がったと伺ったが、その後実際どういう流れになっているか、何か情報があれば教えていただきたい。

#### 【事務局】

西北地区では、西北プラットフォーム実行委員会に企業と学校のキャリアを応援するというシステムがある。昨年度は当センターで音頭を取る形だったが、今年度は西北プラットフォーム実行委員会が、講師を集めるという大変な部分を担っている。

#### 《案件（2）について》

**【委員】**

令和7年度の予定で、夏のこどもまなびフェスタを開催しないことについて伺いたい。来場者数を見ると、今年度はかなり来場していると思うが、参加する人のことを考えたときに、冬のこどもまなびフェスタより夏の方が参加しやすいと思うがどうか。

**【事務局】**

夏のこどもまなびフェスタと生涯学習フェアとの期間が3ヶ月弱のため、準備が大変であることを御理解いただきたい。しかし、冬のこどもまなびフェスタの際の中学生による企画は評判がよかったことから、地域キャンパス講座として残したいと思っている。

**【委員】**

毎回参加させていただいているが、今回も非常に活動の内容が濃いということを実感している。ツルタラボの活動等もパワフルの卒塾生がこのように花開いていくということはとてもすばらしい事だと思っており、こういう事例が増えることを祈っている。頑張ってください。

キャリアポの参加者の大学生が、卒業した後にパワフルの方に入ってくるというような事例というのはあるか。

**【事務局】**

キャリアポからパワフルに来る事例はないが、キャリアポに参加している大学生がパワフルにも参加するという事例はある。地域活動に興味を持っている学生もいるので、パワフルに参加している事例もある。パワフル33期生で大学生だった子が就職して、地域活動を行っているという事例もあるので、キャリアポ、パワフル、地域活動と今後更に繋がっていけばと思っている。

**【委員】**

すべて地続きになっている事だと思うので、そういう広がりも出たらいいと思っている。

**【委員】**

今日、家庭教育支援についての案件がなかったが、今回の家庭教育のポスターがすごく素晴らしい。やさしいグリーンの色合いと親御さんに投げかけているところがすごく心に響いていると感じた。また、子育て動画も大変面白いので、家庭教育支援アドバイザーの研修の時などに取り入れて、紹介してほしい。

### 【委員】

動画を作っても見てもらう機会が少ないということについて、費用がかかるかもしれないが、若いお母さん達が見るインスタがあるらしいので、そこに動画を流して見られるようにしてはどうか。今の若い方に伝わる様な周知方法を工夫して届けていただきたい。動画もすべて見ているが、とてもいい内容でわかりやすい。テレビのニュースも見ない、新聞も見ない状況の中で、届けたい相手がどんな情報収集の仕方をしているのかというところにも焦点を当てて、考えて周知していただきたい。

### 【事務局】

今回家庭教育事業の報告をしなかった理由は、今丁度今年作った防災関係の動画のPRのためのCM、SNS広告を流している最中なので、結果が出たら報告しようと思っていた。私たちも新しい周知方法、インターネットを使って上手く広告を入れてピンポイントで見て欲しい人たちに届けるためにどうしたらいいかということで、今年度は業者に委託し、1か月間インスタ、X、フェイスブックを使って広告を飛ばしてもらい、直接すこやかネットの動画を見てもらうということについて調査している最中である。その結果を後でお伝えしたいと思っている。どれくらい広告の効果があるのかやってみて、その状況を見ながらいろいろ工夫していきたいと思っているので、是非、皆様からも御指導いただけたらありがたい。

### 【委員】

改めて社会教育センターの事業の多様性というかいろいろな学びの場の提供に感謝している。

実はPTAでも様々な行事を行っているが、今年度は東北大会でこちらの社会教育センターの大研修室で開催した。最近の大会の内容は、子ども達も巻き込んで開催する、大人だけの大会ではなく子どもも含めた大会運営が着目されてきている。実際、今回は中学生を中心に、子ども目線での学校統合とはどういうことなのか、意見交換しながら進めていった。また、7年度は五所川原市を中心に大会が行われるが、一つの分科会の中で家庭教育アドバイザーの方を呼んで、その中でPTAとの関わりや悩みなどを出し合って、少しでも子ども達のために何かできることがあればと計画しているところである。PTAと社会教育センターの事業がタイアップできればと思っている。

### 【委員】

様々な学びの形があり、ひとりでも、皆でも学べる状況がある中で、ともに学ぶ価値や楽しさを伝えていくことが、参加者の増加に繋がるのだと思いながらお話を伺っていた。例えばパワフルは非常に重要でよい事業で、中長期的な成果を出せる

事業だと思っている。次年度はフィールドワークを取り入れるという事ですごくいいと思った。自分のやりたい事を持っている人はかなりいると思うが、現状は意外に知られていないので、実際にその現場に行ってみて、活動している人もそうだが、どういう場所があるのか、どんな地域があるのか、そこから知るきっかけづくりも含めると、ともに学ぶ仲間と一緒に共有する地域課題と、そしてそこから学んだことをアウトプットするということが一緒に学ぶ価値になると思うので、このアクションプランづくりとか生涯学習フェアにおける企画を試してみるのもアウトプットなので、ここで学んだらどんな自分に有益なアウトプットができるのかとか、そういうところの見せ方をすごく工夫する必要があるが、非常に素晴らしい事業だと思う。

また、先程のインターネットでどう伝えるかということについて、今年度「弘前5大学サークルガイド」というwebサイトを学生団体が立ち上げた。どんなサークルがあるのか知って欲しいということで、インスタグラム、Xを連動してwebサイトの認知度はかなり上がったが、そこから実際のサークルに入ってもらえるところがなかなか難しく、昨年の秋ぐらいから、やはり対面というリアルな関係性が必要だということで、「サークルミッケ！」というイベントを開催した。学生にとってスマホは、必要な欲しい情報しか入ってこないで、自分が欲しくない情報は得られない社会で、どうやって余白を作るか、知らないことを取り入れるかということ、やはり地域、ローカル、コミュニティのリアルな関わりをどう作っていくかということが大事だということを、大学生が発見したということをお知らせしたい。

#### 【委員】

中学校、小学校の多くは職業講話を開催しており、本校の場合、毎年10種類くらいある職種の中から希望する2つの職種について子ども達が選んで聞く事で、3年間で6つの職種の実際にその仕事に就いている方の話を聞くことができる。最初の頃は先生方の方でいろいろな職業の方を集めていたが、今では教育活動支援課で行っている各地区プラットフォーム実行委員会との連携により、講師を紹介していただき実施している。育成研修課で行っているキャリアサポが、もし職業講話の前にあれば効果が上がるのではないかと思った。きちんと連携して繋がって考えられているということがよくわかった。キャリア教育の企業に対する意識の高め方といったところにまで気を配って事業を組み立てていることがわかった。改めて感謝したい。

#### 【委員】

この会議に出席して色々考えさせられている。私の住む地域は中学校1つ、小学校2つの人口1万1千人くらいで、不登校の子ども達が身近にいるので、「ほっと

プレイス」という名前で、午前中は使用されていない児童館で、民生委員も参加して、できることがあればと思い立ち上げた。すると、小学生がお母さんと来たりしている。中学生にはなかなか声が届かず、来てくれない。この立ち上げを意義のあるものにしたいと思っていたところ、民生委員さんがいるならとおばあさん達が集まり、困り事相談所のようになり高齢者の居場所づくりになっている。なんとか不登校の子ども達の居場所がつかれるよう門戸を広げたいと考えているところである。

#### 【委員】

親になり、社会教育の始まりは家庭教育だと感じているが、親にはなったが親になる準備が全然できていなかったと感じた。事務局でも運営委員の方々でも社会教育、家庭教育という意味で親になる方への支援や、お父さんお母さんが子育てする大変さをサポートする点で、何かこうすることが青森県のこれからのためになるといったことがあれば教えていただきたい。

#### 【委員】

まず児童福祉の関係でお話しすると、児童虐待の相談件数は年々増加して2, 400件ほど。虐待が発生するリスクは様々だが、貧困、障がい、ひとり親あるいは親本人が虐待を受けていたといった家庭を取り巻く環境が虐待に繋がっているケースが様々あり、今、家庭教育が大事だと改めて思った。また、子どもに関するいろいろな支援は実は沢山あるが、なかなか必要な人に届いていないという状況がある。制度は沢山あるが、本当に必要な人も自分から支援を受けようとしなくて、あるいは届いていないということもあると思うので、そこはやはり対面で直接教えてあげるといったところがないとなかなか難しい。先程言ったようにインターネットやホームページに載ってますよと言っても届いていないと意味がないので、我々もいろいろ工夫していかなければいけないなと考えている。

#### 【事務局】

家庭教育の支援、社会教育センターで一番長く続けてきた事業が家庭教育の電話相談になるが、その相談内容が最近変わってきているという話になっている。昔はしつけとか一般的な相談が沢山あったが、最近は親自身がどうしたらいいか悩んでいて、心の相談のようになっているという話を聞いた。どのように子どもに関わったらいいか、親になった人はみんな初めてなので、その辺は市町村がカバーしてくれていると私たちは思っていて、支援センター、サポートセンターで実際やられているのでそのような身近なところに行って聞いてはどうか。プレパパ（ママ）、公民館などで初めて親になる人向けの講座が沢山開かれていて、昔は母親学級とか母

親講座といって女性だけに指導していたが、今は男性女性一緒に子どもを育てるという考え方で一緒に参加する講座が増えていると思っている。

学校の家庭科も1993年から男女一緒に共習することになり、1980年生まれ以降が分水嶺と言われ、男性も女性も子育てに関わるという考え方を持っている。そういう方達向けに講座は沢山開かれている。また、インターネットで子育てアプリというのもあり、人に相談しなくてもやれてしまう。しかし、具体的にひとりひとりそれぞれの家庭でみんな悩みは違うので、相談はオーダーメイドで、実際に対面で人と会って聞かないと自分の知りたいことは知ることができない。本日のご意見から、対面はキーワードと感じでおり気をつけていきたいと思っている。

### 【委員】

お話を聞きながら、今、身近につながれることがすごく大事だと思っている。それは家庭教育だけでなく、地域に密着してどのように繋がるか。社会の状況や子ども達の様子も変わっていくと、新たな課題も出てくるだろうと感じた。このような中でいい取組を継続している事務局の皆さんは、本当に大変だろうと思う。しかし、すごく大事なところでもあるので頑張ってください。

### 【事務局】

今後に向けた希望ということで、青森県の喫緊の課題というのが人口流出を何とか食い止めること、それから少子化の解消で、とにかく安心して子育てができる青森県というところがとても重要だと思う。その中で地域に残ってくれる若者達が増えていくためには、郷土を知る、郷土に愛着を持つということ。これは社会教育として、どのように力を出せるのかということも是非今後検討していかなければいけないことではないかと思っている。